

令和5年度 学校評価表

学校教育目標	「心豊かで自ら求めて学び生き生きと活動する生徒の育成」
--------	-----------------------------

a ミッション	組織的な学校経営を生かした小中連携教育による主体性・表現力の育成	a ビジョン 生徒が「因北中で学んでよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域の方々が「地域の宝である」と思える学校
---------	----------------------------------	-----------------------------------------------------------------

尾道市立
因北中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画
------	--	--	--	------	--	--	--	---------	--	--	------

b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		1月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値	g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
授業改善による確かな学力の定着	表現力を高める活動の充実を通して、学びの定着を図る。	1 主体的・対話的で深い学び学習課題の解決に向けて、疑問を表明したり相互に説明し合う場面を設定し、表現力やコミュニケーション能力を育成する。	「授業では、友だちと話し合うなどとして、自分の考えを深めたり広めたりしている」生徒の肯定的回答	80%以上	91.7%	91.6%	115%	A	<ul style="list-style-type: none"> 各授業で話し合いの場面を意識して設定し、話し合いの型を提示することで、多くの生徒が話し合いを通して考えを深めていると実感している。これを学力向上につなげていかなければならない。 全ての授業でICTを活用しているものの、効果的な活用という点では課題が残っている。様々な活用例を実際の授業で取り入れ、その効果を検証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用している授業は今の時代、悪いと思えず、教員との話し合いでもあり、ICJに頼りすぎではないのが良い。 「学びを深める」ために、対話の充実等、様々な力を養っており実感していることがわかった。「責任ある行動をとる力」「新しい価値を創造する力」の育成のためにも、思考力・判断力・表現力がつとに高くなるか、それはなぜ、力がついて活きるのか、生徒のアウトプットから検証する意義を再確認してほしい。 前回の授業観察で、理由・根拠を明確にする方法を取り入れていたのを見て、いい影響も感じられた。相手自分の意見をわかちあってもらえるように伝えることの難しさ、大切さを教えるのは良いことである。 ICTの活用については、引き続き取り組む指導してもらいたい。 「友だちと話し合うなどして考えを深めたり広めたりしている」「授業がよくわかる」という形質を、生徒が自分の言葉で表現できるように、考えを深める、広めるという具体的な活動の工夫が必要になる。生徒の意識の高さは次のステップに進めるということだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 何をもち「学びが深まった」「授業がよくわかる」とするの、評価の在り方について研究を進めていく。 ICTの効果的な活用については、様々な活用例を実際の授業で取り入れ、その効果を検証していく。 学力調査の結果分析を行い、来年度に向けて各教科対策を徹底させるための活動を取り入れ、活用問題に対応できる力をつける。 					
		2 ICTの活用ICTを有効活用し、授業改善を図る。	「ICTを活用して、学びが深まっている」生徒の肯定的回答	90%以上	64.4%	62%	68%	C								
自主的・主体的な活動を通して、自己肯定感を高める。	生徒が、安心して生活できる学校づくりを進める。 ◎不登校SSR推進校	1 主体的・対話的で深い学び学習課題の解決に向けて、疑問を表明したり相互に説明し合う場面を設定し、表現力やコミュニケーション能力を育成する。	「授業がよくわかる」と答えた生徒の肯定的回答	85%以上	82.5%	83.5%	98%	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期から、自分の意見を述べるときに、理由と根拠を明確にして伝えることを重点に授業改善を進めていく。また、校内研修を通して、生徒が学びを深めるための導入の工夫や表現力を高めるための工夫等も共有し、わりやすい授業づくりに努めている。 現状より学力調査の結果分析を行い、それに基づき各教科で対策を進めている。2月の結果を受けて再度分析を行い、次年度につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生・全期 期+1.8 数+1.0 英-0.6 (2年生) 期+0.4 数+11.3 社-3.5 理-2.1 英+7.1 (3年生) 期+1.8 数+0.1 社-2.7 理+5.2 英+0.2 (1年生) 期+4.5 数+2.0 社+6.9 理+7.0 英+6.4 (1年生) 期+2.8 数+5.0 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生・全期 期+1.8 数+1.0 英-0.6 (2年生) 期+0.4 数+11.3 社-3.5 理-2.1 英+7.1 (3年生) 期+1.8 数+0.1 社-2.7 理+5.2 英+0.2 (1年生) 期+4.5 数+2.0 社+6.9 理+7.0 英+6.4 (1年生) 期+2.8 数+5.0 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生・全期 期+1.8 数+1.0 英-0.6 (2年生) 期+0.4 数+11.3 社-3.5 理-2.1 英+7.1 (3年生) 期+1.8 数+0.1 社-2.7 理+5.2 英+0.2 (1年生) 期+4.5 数+2.0 社+6.9 理+7.0 英+6.4 (1年生) 期+2.8 数+5.0 				
		2 表現力を高める活動の充実を通して 分かりやすい授業づくりを進め、学びを深め、学力の定着を図る。	標準学力調査、全国学力調査での全国平均以上（5教科、4月・1月）	全国平均以上	80%以上	79.6%	73.6%	92%					B			
積極的な生徒指導の推進	生徒が、安心して生活できる学校づくりを進める。 ◎不登校SSR推進校	1 主体的・対話的で深い学び学習課題の解決に向けて、疑問を表明したり相互に説明し合う場面を設定し、表現力やコミュニケーション能力を育成する。	「学校が楽しい」生徒の肯定的回答	80%以上	79.6%	73.6%	92%	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、学校行事や地域の行事に積極的に参加し、地域の力、保護者から良い評価をたくさんいただくことができた。生徒自身の自信につながった。 1年生の授業観察から、学習に対する不安を抱えている生徒が多いことがわかった。不安を軽減するために、学力検査の実施や定期的な個別面談を実施するなど、生徒の不安に寄り添った対応が必要である。 「寝休みのいいわさり」や各学年でのメッセージカードの取組を通して、生徒が安心して生活し、前向きな気持ちになり、自分がやるようになったことから教師が上乗せと考えられる。活動を継続していき、より生徒の良い気持ちを引き出す継続を行っていく。 大きな問題は発生していないが、友達とのやり取りの中で不意な発言をしてしまい相手を怒らせていることや休憩時間に大きな声を出すなどから良い面談があることから指導の留意点として考えられる。問題が発生した際には、生徒から丁寧な聞き取りを行い情報にあたってきき、また、休憩時間の過ごし方や人との関わり方などを指導員が指導する。発問も継続した丁寧な聞き取りを行っていく必要がある。 「はっさく」を生活の中で、時休室不登校であった生徒が毎日登校できるなど改善がもたらされた。 「不登校で発達支援センター」を毎週通学し、心豊かな生徒の連携や対話について指導員がサポートし、理解が深まった。また、不安を抱える生徒に対して積極的にSJCと連携し、カウンセリングの連携を図るなど様々な視点から対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に自信がない生徒が多い。お互いに評価し合うことは良い取り組みである。悪いことも言い合えることに良いと思う。 落ちついた雰囲気でも学習できている。生徒それぞれに居場所があり、安心して学校生活を送っていることがわかった。 「対立やシジマに対処する力」を身に付ける必要がある。 普段の生活の中で「責任ある行動をとる力」の定着をお願したい。 友達や先生、地域の人など「人のかかわり」という視点で生徒それぞれが持つ行動力について考えてほしい。 指導に関しては、就学前からつながりがあるため、幼小で連携していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果のあった取組については、さらに工夫しながら今後も継続して進めていく。 「人とのつながり」や「相手意識」などを意識した生活を送れるよう、全校生活や道徳の授業を活用しながら指導していく。 相手が良いところを伝えることはできるようなが、悪いところや意見が対立する場面での話し合いができていないので、そのような力を伸ばしていくために、エンカウンター等の活動で意図的にその場面を設定していく。 					
		2 表現力を高める活動の充実を通して 分かりやすい授業づくりを進め、学びを深め、学力の定着を図る。	「自分には良いところがある」生徒の肯定的回答	80%以上	69.4%	71.5%	89%	B								
体力の向上と健康の増進	基本的な生活習慣の確立や、体力・運動能力の向上を図る。	1 基本的な生活習慣を整える。	「安全・安心に学校生活を送れている」生徒の肯定的回答	100%	90.4%	88.2%	88%	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になりスマホを所有する生徒の割合が増え、使用時間も増えている。学習相談会や三者懇談などで保護者に対して啓発活動を行った。保護者の協力を得ながら、学校として家庭学習を充実させていくなどの取組を進めていく必要がある。 授業中の体力づくりトレーニング等で生徒の体力向上に取り組んできた。引き続き、生徒の運動時間を確保し、生徒の課題を捉えて体力向上を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等で知り合った他校の生徒とSNS上で繋がりが増え、帰省後出ないという取りができていないので使用時間が増えている生徒が多くなっていると思う。引き続き啓発を続けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> GWでゲームやスマホの使用時間削減を目的とする活動を実施し、1日あたりの使用時間を減らすための学習に対するメリットやデメリットがあるか生徒及びその保護者に体験してもらった。 部活動で外遊びを推進し、運動への意欲を高める。また部活動前に5分間を行なうなど、全校での取組を実施する。 					
		2 保健体育や部活動を通して、体力の向上を図る。	年間2回（前期・後期）の新体力テストにおいて、総合値が向上した生徒の割合	80%以上	47%	45.8%	57%	D								
働き方改革の推進 信頼される学校づくり	組織として、業務改善、信頼される学校づくりを進める。	1 主体的・対話的で深い学び学習課題の解決に向けて、疑問を表明したり相互に説明し合う場面を設定し、表現力やコミュニケーション能力を育成する。	「日々の業務の中で、充実感を得られている」教職員の割合	80%以上	80%	76.9%	96%	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になりスマホを所有する生徒の割合が増え、使用時間も増えている。学習相談会や三者懇談などで保護者に対して啓発活動を行った。保護者の協力を得ながら、学校として家庭学習を充実させていくなどの取組を進めていく必要がある。 授業中の体力づくりトレーニング等で生徒の体力向上に取り組んできた。引き続き、生徒の運動時間を確保し、生徒の課題を捉えて体力向上を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで100%はなかなかないと思うので、充実感が得られているというところは、充実感が得られているところから、自身の望ましい働き方について考えていく。 ただ、在勤時間を減らすためだけに行動するのは、か、どのような働き方が自分にとって適切なのか、関々の思いも聞きながら進めていく。 業務の偏りが出ないように、業務分担を適切に行い、かつ、助け合える職場環境づくりを継続して進めていく。 マニュアルも重要だが、教員は一人一人の教育観が必ず考え、目的手段が異なるように、「なぜするのか」を意識し、生徒への実践を促してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の業務の中で、充実感を得られている」教職員の割合は若干下がっているが、人数としては前回同様で「そうではない」と感じているという結果であった。「授業」「生徒」「生活」「部活動」など、うまくいっている場面は、どこで、うまくいっていないのは何か、具体的に考えてみることも必要である。 教職員の時間外在勤時間は減少傾向にある。4月・5月の結果であった。「授業」「生徒」「生活」「部活動」など、うまくいっている場面は、どこで、うまくいっていないのは何か、具体的に考えてみることも必要である。 教職員の時間外在勤時間は減少傾向にある。4月・5月の結果であった。「授業」「生徒」「生活」「部活動」など、うまくいっている場面は、どこで、うまくいっていないのは何か、具体的に考えてみることも必要である。 時間外勤務に関しては、就学前からつながりがあるため、幼小で連携していく必要がある。 マニュアルも重要だが、教員は一人一人の教育観が必ず考え、目的手段が異なるように、「なぜするのか」を意識し、生徒への実践を促してほしい。 					
		2 マニュアルの遵守を通して、不祥事の未然防止を徹底する。	不祥事0	不祥事0	80%以上	61時間（4～6月）	56時間（9～11月）	80%				B				
働き方改革の推進 信頼される学校づくり	組織として、業務改善、信頼される学校づくりを進める。	1 主体的・対話的で深い学び学習課題の解決に向けて、疑問を表明したり相互に説明し合う場面を設定し、表現力やコミュニケーション能力を育成する。	「日々の業務の中で、充実感を得られている」教職員の割合	80%以上	80%	76.9%	96%	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になりスマホを所有する生徒の割合が増え、使用時間も増えている。学習相談会や三者懇談などで保護者に対して啓発活動を行った。保護者の協力を得ながら、学校として家庭学習を充実させていくなどの取組を進めていく必要がある。 授業中の体力づくりトレーニング等で生徒の体力向上に取り組んできた。引き続き、生徒の運動時間を確保し、生徒の課題を捉えて体力向上を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで100%はなかなかないと思うので、充実感が得られているというところは、充実感が得られているところから、自身の望ましい働き方について考えていく。 ただ、在勤時間を減らすためだけに行動するのは、か、どのような働き方が自分にとって適切なのか、関々の思いも聞きながら進めていく。 業務の偏りが出ないように、業務分担を適切に行い、かつ、助け合える職場環境づくりを継続して進めていく。 マニュアルも重要だが、教員は一人一人の教育観が必ず考え、目的手段が異なるように、「なぜするのか」を意識し、生徒への実践を促してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の業務の中で、充実感を得られている」教職員の割合は若干下がっているが、人数としては前回同様で「そうではない」と感じているという結果であった。「授業」「生徒」「生活」「部活動」など、うまくいっている場面は、どこで、うまくいっていないのは何か、具体的に考えてみることも必要である。 教職員の時間外在勤時間は減少傾向にある。4月・5月の結果であった。「授業」「生徒」「生活」「部活動」など、うまくいっている場面は、どこで、うまくいっていないのは何か、具体的に考えてみることも必要である。 時間外勤務に関しては、就学前からつながりがあるため、幼小で連携していく必要がある。 マニュアルも重要だが、教員は一人一人の教育観が必ず考え、目的手段が異なるように、「なぜするのか」を意識し、生徒への実践を促してほしい。 					
		2 マニュアルの遵守を通して、不祥事の未然防止を徹底する。	不祥事0	不祥事0	80%以上	61時間（4～6月）	56時間（9～11月）	80%				A				

【自己評価 評価】

A: 100 ≧ (目標達成)
C: 60 ≧ (もう少し) < 80

B: 80 ≧ (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【学校関係者評価】

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: わからない。